

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 7 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.8 m <sup>3</sup> /h	33.1	106.1 kPa abs	A系:0.06 vol% B系:0.10 vol%
		給水系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.1 m <sup>3</sup> /h	46.4	14.71 kPa g	A系:0.16 vol% B系:0.15 vol%
		給水系：約 2.8 m <sup>3</sup> /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m <sup>3</sup> /h	55.0	0.27 kPa g	A系:0.15 vol% B系:0.14 vol%
		給水系：約 2.9 m <sup>3</sup> /h			

\*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・6/7 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、 $1.6 \sim 3.5 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$  であり、再臨界判定基準の  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。

【2号機】・6/7 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、キセノン 135 は当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値 ( $9.7 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準である  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。また、希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値 ( $2.3 \sim 2.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準の  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。

【3号機】・6/7 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値 ( $3.4 \sim 3.5 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準である  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.0
2号機	循環冷却システム	運転中	24.4
3号機	循環冷却システム	運転中	23.6
4号機	循環冷却システム	運転中	40

【4号機】・6/4 20:03 使用済燃料プール代替冷却系において、「エアフィンクーラ盤異常」の警報が発生し、二次系の循環ポンプ(A)が過負荷トリップしていることを確認。現場確認の結果、ポンプモータ端子箱付近に焦げ痕を確認したことから、21:27、富岡消防署(楢葉分署)に連絡。その後、同日 23:30、消防署から「火災ではない」との判断をいただいている。なお、使用済燃料プール代替冷却系については、同日 20:27、二次系の循環ポンプ(B)を起動しており、プール水温に有意な変動はなく、冷却状態に問題なし。

6/5 10:30 使用済燃料プール代替冷却系における二次系の循環ポンプ(B)の状態確認を実施するため、同ポンプを一時的に停止。状態確認を実施したところ、端子接続部の施工が不十分であることが確認されたことから修正作業が必要と判断。

6/6 18:16 端子接続部の修正作業が終了したため、使用済燃料プール代替冷却系における二次系の循環ポンプ(B)を起動し、冷却を再開。(再開時プール水温度:42℃)

・6/7 14:18~16:00 使用済燃料プールヘヒドラジンの注入を実施。

### <3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	5/27 14:34 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	6/3 10:15 ~ 6/7 8:25 移送実施
6号機	6号機タービン建屋 →	仮設タンク	6/7 10:00 ~ 16:00 移送実施

・6/6 17:27~6/7 8:04 集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)と集中廃棄物処理施設[ 雑固体廃棄物減容処理建屋( 高温焼却炉建屋 ) ]間のトレンチ(共用プールダクト)から、集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ] への移送を実施。

### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/7 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 ( サリー )	除染装置	淡水化装置 ( 逆浸透膜 )	淡水化装置 ( 蒸発濃縮 )
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

### <5. その他>

- ・H23/10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23~ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ~ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/14~ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- ・H24/4/25~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/6/6 14:30 頃 2号機増設廃棄物地下貯蔵建屋にて、タンク類の状況確認を目的とした調査を行っていたところ、同建屋内の廃スラッジ貯蔵タンクおよび、廃樹脂貯蔵タンク周辺に水が溜まっていることを確認。溜まり水の量は全体で約 830m<sup>3</sup>と推定しているが、溜まり水は建屋内に留まっており、建屋外に水が流出する可能性はない。なお、雰囲気線量率はタンク上部にて0.03mSv/h程度であり、バックグラウンドと同等であるため、溜まり水は壁の貫通部から地下水ないしは雨水が流れ込んでいるものと推定している。今後、あらためて現地確認を行い、止水処理を実施する予定。
- ・H24/6/7 3号機原子炉建屋上部において、ダストサンプリングを実施。
- ・H24/6/7 3号機原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを実施。

以上